音更町総合計画推進委員会会議結果（要旨）

会 議 名	令和５年度第４回音更町総合計画推進委員会
開催日時	令和６年２月１日（木）　午後６時３０分から午後８時まで
開催場所	音更町役場庁舎３階　３０１・３０２会議室
委　　員 出 席 者	吉田委員長、作田委員長職務代理、内形委員、木野村委員、島田委員、杉山委員、高橋委員、中村委員、森田委員
オブザーバ 出 席 者	北海道十勝総合振興局地域創生部地域政策課長　範国氏
町　　側 出 席 者	深谷企画財政部長、大井企画課長、川村企画調整係長、塩越企画調整係主事、永谷総務部次長、 髙橋危機対策係長、藤原健康推進課長、佐藤保健担当課長、大野おやこ保健係長、水戸教育総務課長、 背戸田学校教育課長
傍聴者	なし
議題・諮問 内容	１　開会 ２　委員長あいさつ ３　議件 　第６期総合計画重点施策及び第２期まち・ひと・しごと創生総合戦略推進管理評価調書の検証について ４　その他 　次回以降のスケジュールについて
会議資料	・令和５年度第４回音更町総合計画推進委員会議案 ・資料１　総合計画推進委員　質問・意見に対する回答 ・資料２　いじめ・不登校児童生徒への対応について ・資料３　音更町における「妊娠期から子育て期にわたる」切れ目ない支援体制について ・資料４　防災対策の充実について
会議結果	３　議件 　第６期総合計画重点施策及び第２期まち・ひと・しごと創生総合戦略推進管理評価調書の検証について 　推進管理調書と資料１から資料４に基づき検証が行われ、次の項目のとおり意見等が出された。 ４　その他 　次回の会議を令和６年２月８日（木）に開催することが決定した。
出された 主な意見等	３　議件 　第６期総合計画重点施策及び第２期まち・ひと・しごと創生総合戦略推進管理評価調書の検証について 【基本目標３－（３）義務教育内容の充実】 ○　いじめ対策の情報などを子どもだけでなく、保護者にも周知する必要がある。 ○　不登校の児童生徒数がコロナの影響などにより増えている。不登校には様々な要因が重なることもあり、その対応も多様化（教育支援センターやフリースクール、保健室登校、オンライン授業など）

	しているほか、起立性調節障がいの子も増える中、国の統計上、難しい面もあるかもしれないが、登校を前提とした不登校の児童生徒数ではない捉え方も、社会参加に向けた支援を進める上で必要ではないか。 ○　「小・中学校の教育環境」の満足度については、回答者全体の数値に加え、子育て世代など、各年齢層ごとの分析を行うことも有効と考える。 ○　ハイパーQUアンケートは、児童や生徒に回答してもらうことで、意欲の低下やいじめの可能性のほか、クラスが荒れ始めているなどの状況も把握できるもので、今後も有効活用を図る必要がある。 【基本目標３－（５）子育て支援拠点の充実】 ○　国のメニューなどを活用し財源を確保しながら、先進的な他自治体を参考に、今後も多様化するニーズに合わせて事業内容を精査するなどして、より子育てがしやすいまちにしていただきたい。 ○　近年は、近隣市町村も含め外国人同士のカップルなどが増えてきている。子育て支援も外国人を視野に入れて取り組んでいただきたい。 ○　子育てをする際に周りにサポートしてくれる人がいないという家庭が多くある。たくさんのサポート事業があることは理解しているが、なかなか利用につながらず、頑張りすぎてしまう現状もある。実際の利用者の体験談などにより、希望者が、どのような人がどのような環境で助けてくれるのかなどを具体的にイメージできるよう情報発信を行う事業内容の「見える化」を進めることで、利用したいが不安がある人などへの後押しとなり、利用につながると思う。 ○　「子育て環境や支援」の満足度が下がってるが、子育て世代にピンポイントでアンケートを実施するなどして、満足できていない内容などを分析していかなければ満足度を上げるための対策を打つこともできないと感じる。 ○　離婚などにより、ひとり親家庭が増え、養育費の支払いが滞っているなどの事例も増えてきていることから、そうした相談があった場合に、町の法律相談のほか、関係機関が行う経済的支援などにつなぐことも重要になってくる。 【基本目標４－（４）防災対策の充実】 ○　近年、町内会に属さない人が増えてきている中で、近くに住む人の情報が分からず、各地域で要支援者を把握することが困難になってきている。特に若い世代が町内会に入らない傾向があるが、防災への関心は比較的高いため、地域コミュニティとして自主防災組織を設立し、その活動をアピールすることで、町内会への加入と合わせて推進する必要がある。 ○　町が、休日などに出向いて防災に関する講話などを行うことも可能とのことなので、若い世代がいるときに実施することで、共通の話題でどう対応するかなどのコミュニケーションもでき、自主防災活動などへの興味を示すきっかけになると思う。 ○　町内に住む外国人向けに、ハザードマップなどを多言語化にしたり、「やさしい日本語」にしたりするなど、誰にでも分かりやすいものにするよう検討していただきたい。